

## 「生駒市立小・中学校のあり方に関する基本的な考え方」に対する意見 まとめ

No	頁	基本的な考え方の該当部分	意見内容等
①	3	2 生駒市立小・中学校の現状と課題 (3)本市の財政状況	今回の再編は、子どもたちのためではなく、財政負担を抑制するために行うものであるように感じてしまう。
②			メリット・デメリットも漠然としている。
③			もう少し教育面から小規模校のメリット・デメリットを深掘りしていただきたい。
④	5	小規模校・大規模校のメリット・デメリットの表	どうして小規模だったらいけないのかまったく分からない。
⑤			小規模の良さが認められている。国が少人数学級への取組を進めていることから、少人数学級を進めるべきである。
⑥	8	3 望ましい学校規模及び学校配置を踏まえた検討結果	現時点では、南小としては、南第二小との統合に問題はない。
⑦			通学の安全確保を最優先にお願いしたい。
⑧	9	5 具体的な方策を実施する際に留意すべきこと (1)児童生徒の通学の負担(通学時間、通学手段等)及び通学路の安全に関すること	南第二小が南小に再編された場合、竜田川や国道などの危険箇所を通る必要がある。公共交通機関を使用するとなっても負担が増える。このような課題は必ず解決しなければならない。
⑨			小学低学年で1時間の通学時間は考えられない。夏の暑さや通学路は危険な箇所を多いことから、安全確保と負担軽減が必須である。
⑩		5 具体的な方策を実施する際に留意すべきこと (2)学校再編の環境変化に伴う児童・生徒及び保護者への対応に関すること	児童の通学負担も重要だが、保護者の負担についても負担とならないよう配慮していただきたい。
⑪	10	5 具体的な方策を実施する際に留意すべきこと (3)通学区域の見直しに関すること	校区の再編成が最優先だと思う。
⑫			生駒南中学校と大瀬中学校の生徒数の格差を踏まえ、現在の小学校と中学校の校区の再編が不可欠である。
⑬			市の100の複合型コミュニティの取組と南第二小の再編は整合性がないのではないかな。
⑭		5 具体的な方策を実施する際に留意すべきこと (4)学校と地域との関係に関すること	萩の台地域の住民にとって、南第二小の再編は死活問題である。萩の台地域を衰退させる南第二小の再編に反対である。
⑮			学校は地域コミュニティの核である。コミュニティを考えた場合、再編されると新たな世代・小さな子どもが入ってこなくなる。学校が無くなると、コミュニティが成り立ちにくくなる。
⑯		6 魅力的な学校づくりの推進 (1)小中一貫教育の推進	人間の成長段階を考えると、9-3制よりも6-3-3制がマッチする制度だと考える。
⑰	11	6 魅力的な学校づくりの推進 (3)学校施設の充実	南小・南中は耐震化が完了しているとはいえ、老朽化が進んでいる。子どもたちが安全に学べる場所を最優先に考えてもらいたい。
⑱			具体的な方策についてともに考えていければと思う。
⑲			分校化ということも一つではないか。空いた施設を地域に開放するなど色々な手法がある。
⑳		7 小規模校を存続させる場合の具体的な方策	市全体で通うことができるということで小規模校を存続させることも有りだと思う。
㉑			すでに生駒南第二小学校の学校運営協議会において、小規模校を存続させるための方策の実現に向けて方向性を決定し、取組を進めようとしているところである。